山も海も、みんなが良くなったら、自分も良くなる。

五郷の〝山〟の達人　石井 敏さん（観音寺市）

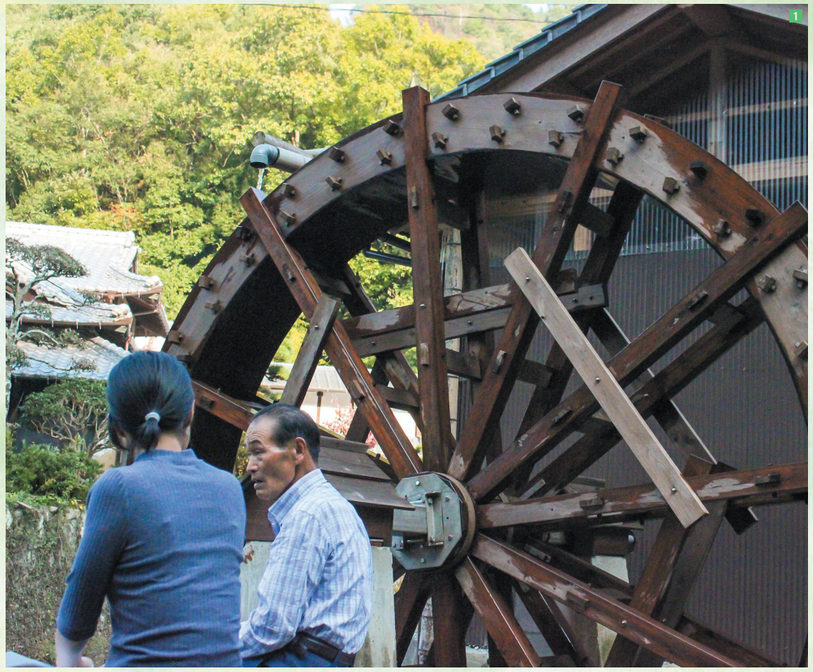
石井（いしい） 敏（さとし）さん
（昭和18年生まれ・72歳）

×

大倉（おおくら） まみさん
（香川大学西成研究室OG）

コーディネーターより

石井敏さんは、観音寺市大野原町海老済（えびすくい）の生まれ。かつて五郷と呼ばれた山間地域で暮らしています。五郷でも一番山奥の地域で、シバやハナマツを栽培しながら山と共に過ごす日々。ご家族は同じ大野原町福田原という少し離れた地域に住んでいますが、石井さんは山を守るため山から離れることなく暮らしています。運送会社の会長として今も会社に通う一方、「五郷里づくりの会」のメンバーとして、水車の復活など五郷地区の活性化に尽力されています。石井さんに話を聞いた大倉さんは、大学時代から五郷で暮らす人たちに興味を抱き、フィールドワークで何度も足を運んでいました。今回は、石井さんたちが復活させた水車の前で、かつての五郷の山の暮らしを聞きました。



石井さんから受け取った言葉

——里山の暮らしの魅力はなんですか？

私の住んどるところは四国のアルプスと言われるところで。誰も人が入ってこない山の中ですので、すごく静かで、のんびりしていて、自然豊か。自分のペースで生活できるのが一番いいです。

——ご近所との関わりは？

近所との関わりいうんは、山ですからな、すごく素朴です。やっぱり昔ながらの助け合いの精神が今でも残ってるんで、生活は楽しいです。

——以前、山を通るたびに山の神様に手を合わせるっておっしゃっていたのが印象的だったのですが、そうした信仰は昔からこの地域に根付いているんですか？

山の神様いうんは、その地域の守り神ですからな。まず私は「うちの集落、石砂（いつさこ）・海老済（えびすくい）の皆さんが今日も一日元気で暮らせますように」とお祈りして、次に「家族が元気で一日暮らせますように」、その後で「私も今日元気で暮らさせてください」と。それを毎日神さんの前を通るときに自然にな、そこへ来た時には意識しなくても手を合わすようになるんよな。守り神は、その人その人で違うけれども、〝大きい木には神宿る〟と言ってな。うちの方の地域では山一番の大木を、山の神さんいうてみんなが信心していました。

今は木を伐らなくなったけどな、昔は山の木を伐ってそれを薪にしたり、パルプにしたりな。家がようけ建つようになると、建材用の木材として、スギやヒノキ、マツを山から伐り出して、それを生活の糧にしていたからなぁ。山の木を伐るときは、事故のないように。それで山の神さんをみんなが信仰するようになったんですよ。

——昔は山で危ない思いをされる方が多かったんですか？

山の仕事は、たいていは安全なんやけど、中には怪我する人もおります。山の神さんのバチがあたったんじゃとな。そうならんように、山に入るときにはまず山に手を合わせてから入る。そういう習慣が私には身についとるな。

それから山で迷うこともある。自分のおる位置がわからんようなるんよ。だいたい景色を見ればわかるんやけど、なんぼ見ても「えっ、これどこ」と、慣れた山でもわからなくなる。「しもた、たぬきに化かされたわい」とな。日本昔話ではないけれど、実際山に入ったら、たぬきに化かされたらいかん、天狗に隠されたらいかん、帰れんようなったらいかんと、今でも常に気を付けています。

——五郷には豊稔池ダムがあって、この山の水がふもとの三豊平野を潤し、海の漁業にもつながっている。そんなつながりを感じるのですが、今後、まちや海も含めて一緒にできること、やりたいことはありますか？

里、まち、海の文化を大切にしながら、それぞれの特徴を生かして、交流人口が増えればいいなと思います。例えば、山では里山歩きをしてまちや海の人に森林浴を楽しんでもらう。平野では野菜の体験栽培、海では潮干狩りという風に皆で連携して。一部だけが良くなろうと思っても良くならない。みんなが良くなれば、自分も良くなる。その考え方は、私の生活体験の中から学び取ったものかな。

意識しなくっても
手を会わすようになるんよ。

1 石井さんたち「五郷里づくりの会」が中心となって復活させた水車。直径は4m、かつては五郷にも水車が8基くらいあったそう　2 山の文化を守ろうと、今も海老済に暮らす石井さん。「山のいいところは、空気がきれいで、静かで、何より春夏秋冬が身近なこと。目で楽しませてくれたり、食で楽しませてくれたり。その恵みをいただきながら生活できるのが一番の楽しみです」　3 石井さんの山にて。五郷の人でさえ「山」と呼ぶ海老済地区。尾根を越えれば愛媛県や徳島県に通じる県境の地域だ　4 山の山頂にあるこんぴらさんを祀った山神社

参加者の感想

住民同士が助け合い、自分のペースで暮らす素朴で豊かな里山暮らしのお話を聞く中で、知り合いが天狗に隠されたり、ご自身がたぬきに化かされた体験談も語ってくれました。自分の生活を振り返ると、真っ暗闇や自然が身近になく、その違いに気づきます。山の暮らしは今も闇や自然を畏れ、恵みに感謝し、神様に祈りを捧げる暮らしがあるのだと思いました。「山の暮らしを守りたい、未来に伝えたい」という想いを強く受け取りました。